

肝細胞癌の焼灼療法後生検検体を用いた系統的な遺伝子解析による癌再 発リスクの層別化に関する研究

1. 研究の対象

既に肝細胞癌に対し、穿刺局所治療(ラジオ波焼灼療法もしくはマイクロ波焼灼療法)後に生検を受けられ、「肝胆膵疾患患者に由来する血清や余剰生体試料の保管」研究に同意頂いた方

2. 研究の概要

研究期間:総長の研究実施許可日~2029年12月31日

研究目的:本研究の目的は、既に当院にて肝細胞癌に対し、穿刺局所治療(ラジオ波焼灼療法もしくはマイクロ波焼灼療法)後に生検を受けられ、「肝胆膵疾患患者に由来する血清や余剰生体試料の保管」研究に同意頂いた方の保管されている検体を用い、遺伝子変異を解析し、再発や予後との関係を明らかにすることです。

研究方法:肝細胞癌は、さまざまな遺伝子異常により発症すると考えられています。本研究では、既に当院にて肝細胞癌に対し、穿刺局所治療(ラジオ波焼灼療法もしくはマイクロ波焼灼療法)後に生検を受けられ、「肝胆膵疾患患者に由来する血清や余剰生体試料の保管」研究に同意頂いた方の保管されている検体を用い、遺伝子の異常を調べます。得られた遺伝子の異常と、「肝胆膵疾患患者に由来する血清や余剰生体試料の保管」研究に同意頂いた方の血液検査や画像(エコー、CT、MRI)検査の結果を比べて、癌の再発の間隔や頻度、再発時の治療法、予後を評価し、異常を来した遺伝子の数や種類との関係を調べます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報:年齢、性別、病歴、肝細胞癌の治療歴、抗がん剤の治療歴、血液検査、画像検査、合併症や有害事象の発生状況 等

試料:当院にて肝細胞癌に対し、穿刺局所治療(ラジオ波焼灼療法もしくはマイクロ波焼灼療法)後に生検を受けられ、「肝胆膵疾患患者に由来する血清や余剰生体試料の保管」研究に同意頂いた方の保管されている検体

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター 肝胆膵内科 研究責任者 中堀 輔

住所:〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話:06-6945-1181

-----以上